

## 平成 28 年度事業計画書

当財団は、わが国における小児の健康及び疾病に関する諸問題を総合的に調査、研究し、さらにその啓発、指導、その他の活動の推進的役割を務め、小児の医療・保健及び福祉の向上に寄与することを目的として、「小児の健康並びに疾病の成因、診断、治療及び予防に関する研究助成事業」と小児科医及び小児医学研究者の育成と支援のための「海外留学フェローシップ事業」及び「小児医学・医療・保健に関する優れた研究論文に対する褒賞事業」等に加え、広報啓発活動「市民公開講座」を開催するなど、公益事業の推進に努めております。

今年度は、引き続き設立来の重点事業である「小児の健康並びに疾病の成因、診断、治療及び予防に関する研究」に対する助成、若手の小児科医や小児医学研究者育成のための支援事業の充実・推進を図っていくとともに、小児の心理機能の適正な発達及び円滑な社会生活の促進を図ることを目的に、広く国民に理解と認識を図る啓発活動として、「発達障害」をテーマに市民公開講座を開催し、発達障害の早期発見及び発達支援の向上に努めてまいります。

### 1. 研究に対する助成

#### (1) 小児の健康並びに疾病の成因、診断、治療及び予防に関する研究

##### ① 小児医学領域全般に関する研究

- ア 新しい感染症や急性疾患の診断・治療に関する研究
- イ 小児の難治疾患、慢性疾患の本態解明と治療に関する研究
- ウ 生活習慣病の予防に関する研究
- エ 遺伝子治療など高度先進的医療の開発のための基礎的研究
- オ いじめ、虐待、拒食、不登校など子どもの心のケアや心身症に関する研究
- カ 生命倫理など社会的問題に関する研究
- キ 国際医療協力の基盤となる母子保健に関する研究
- ク その他、子どもの健康に関する研究

##### ② 感染症及び感染症予防ワクチンに関する研究

#### (2) 助成金額

##### ① 小児医学領域全般に関する研究

1 件 200 万円以内、総額 700 万円

##### ② 感染症及び感染予防ワクチンに関する研究

1 件 200 万円以内、合計 5 件程度

#### (3) 助成対象者

小児医学の基礎的及び臨床的研究に従事し、平成 28 年 12 月 31 日現在 50 歳未満の日本国籍を有する小児科医・小児医学研究者（原則として教授及び研究機関等の部長

級以上の者を除く。)

(4) 募集、選考等

募集は、当財団ホームページ、当財団機関紙（子どもたちの世紀）、日本小児科学会雑誌に公告のうえ行う。

選考は、当財団選考委員会において選考のうえ、当財団理事会において決定する。

2. 海外における研究に対する助成（海外留学フェローシップ）

(1) 発達障害に関する基礎的及び臨床的研究

① 助成金額

1件 180万円以内、総額 360万円

② 助成対象者

海外の研究機関等において、標記の研究に一定期間（原則6ヶ月以内）従事する40歳未満（平成28年12月31日現在）の日本国籍を有する小児科医・研究者

(2) 感染症及び感染症予防ワクチンに関する研究

① 助成金額

1件 350万円以内、合計2件程度

② 助成対象者

海外の研究機関等において、標記の研究に一定期間（原則1年）従事する40歳未満（平成28年12月31日現在）の日本国籍を有する小児科医・ワクチンに関する研究者

(3) 募集、選考等

募集は、当財団ホームページ、当財団機関紙（子どもたちの世紀）、日本小児科学会雑誌への公告によりを行う。

選考は、当財団選考委員会において選考し、当財団理事会で決定する。

3. 研究会、研修会、講演会等に対する助成

(1) 助成金額

総額 50万円以内

(2) 助成対象研究会等

当財団企画運営委員会により協賛又は後援の承認を得たもの。

4. 小児医学・医療・保健に関する優れた研究論文に対する褒賞

(1) 褒賞金額

1件 30万円、総額 120万円

(2) 対象とする研究

① 小児医学領域全般に関する研究論文

② 発達障害に関する研究論文

(3) 褒賞対象者

平成 28 年 12 月 31 日現在 40 歳未満の者で、

- ① 日本小児科学会機関誌「日本小児科学会雑誌」及び「Pediatrics International」に掲載された原著論文の筆頭著者 2 名
- ② 日本小児神経学会機関誌「脳と発達」及び「Brain&Development」、日本小児精神神経学会機関誌「小児の精神と神経」、日本小児心身医学会機関誌「子どもの心とからだ」に掲載された発達障害に関する原著論文の筆頭著者 2 名

(4) 選考等

日本小児科学会及び上記②記載の学会からそれぞれの学会誌に掲載の優秀論文の推薦を受け、当財団の選考委員会において選考のうえ、当財団理事会において決定する。

5. 広報啓発活動

(1) 市民公開講座の開催

テーマ「気になる子どもの支援 — 発達特性、発達障害の理解と支援 —」

子どもの注意欠陥・多動性障害、広汎性発達障害及び学習障害並びに発達障害における二次的な問題について、小児の専門医がわかりやすく解説し、また、会場の参加者からの質疑、不安に応えることにより、子どもの発達特性・発達障害に対する正しい理解と認識を啓発し、早期発見及び発達支援の向上に努めるもの

開催日時：平成 28 年 9 月 4 日（日）13 時 30 分～16 時（予定）

場 所：大田区産業プラザ P i O

プログラム

（座 長）奥山眞紀子 先生（国立成育医療研究センター副院長・こころの診療部長）

第1部 講演

- ① 宮本信也 先生（筑波大学人間総合科学研究科教授）  
子どもの注意欠陥・多動性障害と広汎性発達障害（仮題）
- ② 小枝達也 先生（国立成育医療研究センター こころの診療部長）  
子どもの学習障害の早期発見と介入（仮題）
- ③ 杉山登志郎 先生（浜松医科大学児童青年期精神医学特任教授）  
発達障害における二次障害とその対応（仮題）

第2部 参加者とのディスカッション

参加者と講師との質疑応答

(2) 機関紙（子どもたちの世紀）の発行

年 2 回（第 13 号：平成 28 年 4 月 1 日発行及び第 14 号：同年 10 月 1 日発行）

(3) 財団ホームページ（<http://www.jfpedres.or.jp>）の運営